

第2回アジア-食の安全保障会議（2014; Biên Hoa, Vietnam）に出席して

片 山 眞 之*

大阪青山大学健康科学部健康栄養学科

On the 2nd AFSA** Conference on Food Safety and Security held on August 15 -17, 2014,
at Dong Nai University of Technology, Bien Hoa City, Vietnam.

Masayuki KATAYAMA

Department of Health and Nutrition, Faculty of Health Science, Osaka Aoyama University

緒言

2014年8月15～17日、第2回AFSA国際会議がベトナム南部のビエンホア市のドンナイ工科大学にて開催された。すでに、「バングラデシュ・日本」微生物食品安全衛生国際会議が10年近く日本とバングラデシュ両国で交互に行われてきたところであり、その第3回の会議については著者が先に報告した通りである¹⁾。今回の国際会議は、上記の「バングラデシュ・日本」微生物食品安全衛生国際会議を引き継ぐ形で開催されるに至ったものであり、その第1回国際会議(2012, Sept 15-17)が大阪関空タウンにある大阪府立大学獣医学部キャンパスにて開催されて、今回が第2回目の国際会議である。ヴェトナム南部の街、ビエンホア市にて開催された。

次回はインドにて開催されることが決まっている。

会議場の立地

会議場はホーチミン市（旧サイゴン市）の北方30kmにあり、工業団地が集結した地域である。

会場校となったベトナム・ドンナイ工科大学は、ビエンホア市街地の端の方の田園地帯の真ん中に建っていた。敷地は新しく造成されたかの様に初々しく、建物も新しかった。ここ、ビエンホア市には幾つかの工業団地があって、先進各国から工業製品の製造工場が

進出している。ビエンホア市はホーチミン市（元サイゴン市）の北東30kmくらいに位置しているが、ホーチミン市からの通勤圏以内になっているのであるが、さらにベトナム南部の農村やメコンデルタ地帯からも工員が集まって来ているという。これらの工業団地には、日本の企業も参加しているという。

会議終了の翌日、学会出席者の多くは学会手配の大型バスでホーチミン市へ送ってもらったが、その途次或る大型農業団地（写真1）に立ち寄った。



写真1：ヴェトナム ビエンホア市郊外の大規模農業団地
Photo 1: A big Agricultural Park in the suburbs of Bien Hoa city, Vietnam.

*大阪青山大学客員教授 E-mail: katayama@osaka-aoyama.ac.jp
〒562-8580 箕面市新稲2-11-1

**Asian Food Safety and Security Association

広大な敷地に大規模にグリーンハウスが立ち並び、それぞれに蘭などの花卉、メロンなどの果物、茸などの農産物などが大規模に栽培されていた。野菜類は水耕栽培されていた。蘭は遮光用の紗をかけて熱帯の陽射しを遮るだけでミスト撒水すれば十分に育成できるようであった。蘭は成長点培養によって大量に生産されている様子で、若い女性がフードに向かって細胞採取と移植作業をしている部屋も見学者コースに組み込まれていた。

大学の敷地

大学の正門を入ったところのビルを入ると、コンクリートを張った中庭があって数十本の噴水が床から吹き上がっていた。日が暮れるとこの中庭の中心部分を電光照明が照らし、一定時間毎にいろいろな色を交互に照射していた。この地域一帯で工業製品が盛んに造られていることを象徴している様だった。大学の敷地には小中学校も併設されていて、朝の登校時には、父兄のバイクにのせてもらったり子ども同士がグループをつくったりして、生徒が続々と登校してきた。

朝、大学への幹線道路沿いには路端に日常生活用品が並べられていて、市民が魚や肉や野菜を盛んに買っていた（写真2）。通勤にはバイクを利用する人が多くて、道路にはバイクが溢れていた（写真3）。



写真2：大学への幹線道路の路端に店を広げた魚屋
Photo 2: A roadside shop selling fishes along a big road to Dong Nai University of Technology.



写真3：朝の通勤時間帯に溢れるバイク群
Photo 3: A rush hour street flooded with motor bikes on a week-day morning.

会議の概要

会議は総括的な報告の他に、一般口演発表とポスター発表とから構成されていた。

本学からは我々（片山ら）²⁾の他に宮本教授ら³⁾の発表が行われた。

我々の発表は褐藻類のヒジキとアカモクにおけるヒ素含有量を調理前処理によって減少させる条件の検討結果についてである。ヒジキは日本古来の重要な食材なので、調理に際してのヒ素含有量の動態が注目される。アカモクは近年食材として広く注目されているのであるが、東北地方などでは地域によって古くから食材に利用されてきた。一般的に褐藻類にはヒ素含有量が多く、アカモクにも高濃度にヒ素が含まれている。アカモクとヒジキにおけるヒ素蓄積の特性を知るためには、アカモクとヒジキを同一海域で採集して両者におけるヒ素含有量を比較する事が必要である。著者らは以前、伊勢湾の入り口近く（鳥羽）の海域でアカモク⁴⁾とヒジキ⁵⁾を同時に採集してヒ素含有量を比べた。アカモク（*Sargassum horneri*）に含まれるヒ素はヒジキ（*Sargassum fusiforme*）の約2倍の高濃度で存在している事が分かった。今回の学会発表は、ヒジキおよびアカモクに加えられた調理前処理がヒ素含有量減少にどのように寄与しているかについて、著者らの得た知見を発表したものである。

宮本教授らの発表は、接近するボールを用いた衝突回避行動をモデルとしたもので、児童の衝突回避能力が日常の食事習慣や運動習慣とどのように関わっていたかについての報告であった。

ベトナム管見

我々の宿泊先は、市街地の外れにあり周囲には小さな川や空き地が点在していた。ガーデンビューと称された部屋であったが実際には庭に面した1階立ての建物で、ドア1枚で庭の地面に接していた。ドアの下には10cm程の隙間があって外との仕切りになる敷居はなくてバリアフリーと言ってよい状態であった。シャワー室の天井近くには換気用の小窓があり、そこは細かいネットで塞がれてはいたが、一部分は破れていた。この様に、この宿は自然の真っ只中という風な環境であったが、心配していた蚊が殆どいなかったのには驚いた。蠅は少しいたが、大きな部屋でも食卓をめがけて1~2匹飛んでくるくらいであり、それでも予想よりは遥かに少なかった。持参した電池式蚊取り器具は動かす必要がないくらいだった。この事は、メコン川下流の三角洲地帯の真ん中(写真4)でも経験した事である。メコン川を下るときに川添いの集落近くに窓の無い中型の小屋が建っていた。この小屋は、蚊を取るためのコウモリが昼間過ごせるよう用意されたものだったことだった。果たして、餌になる蚊が周辺にいるのであろうかとさえ思えるほどに蚊の姿が見えなかった。



写真4: メコンデルタ地帯の水路にて
Photo 4: On a canal water front in a Mekong Delta region.

ホーチミン市近郊には刺繍画の研修施設があり刺繍画製作に身障者も多数参加していた。かつてのベトナム戦争による枯れ葉剤の影響が社会にまだ色濃く残っているのであろうか。

日本への帰路はハノイ経由だったので、1日をハノイ郊外の散策に当てた。ハノイの南方には、ハロン湾への途上に中国・桂林風の地形を持った農村地帯が広がっている。ここは田園地帯の真ん中で標高も低い。人家の周りは水路で囲まれ、水面にはアヒルが飼われ

ていたりするが、ここでも蚊を殆ど見かけなかったのである。

ベトナムでは、日本を出る時に聞かされていた様な盗難に遭うことも無く、接した人々が大変親睦的であったことは幸いであった。

References

- 1) 片山眞之. 第3回「Bangladesh - Japan」国際会議に出席して. 大阪青山大学紀要 2008, 1, 79-83.
- 2) Masayuki KATAYAMA, Yohko SUGAWA-KATAYAMA, Kaori MURAKAMI. Pre-cooking treatment of some marine brown algae for utilization as foodstuffs. Abstract and Program of the 2nd AFSA Conference on Food Safety and Security, Dong Nai University of Technology, Vietnam 2014, P.98.
- 3) Kunihiro MIYAMOTO, Ikuharu MORIOKA, Yasuko NAMURA, Yuko HIGASINE, Yasuto NAKANISI, Hidehiro NAKAJIMA. Correlations among eating habits, stress compliants, and collision avoidance abilitites in school children. Abstract and Program of the 2nd AFSA Conference on Food Safety and Security, Dong Nai University of Technology, Vietnam 2014, P.103.
- 4) Masayuki KATAYAMA, Yohko SUGAWA-KATAYAMA, Rie SAWADA, Yuko YAMAMOTO. Distribution of accumulated arsenic in the plant body of Akamoku, *Sargassum horneri*. Trace Nutrients Research, 2008, 25, 129-133.
- 5) Masayuki KATAYAMA, Yuko YAMAMOTO, Rie SAWADA, Yohko SUGAWA-KATAYAMA. Distribution of accumulated arsenic in the seaweed Hijiki, *Sargassum fusiforme* (Harvey) Setchell (6). J. Osaka Aoyama University, 2008, 1, 29-34.